



第二成算課夏務順方



114
A2291
2

第二 成算課

院省使ノ經費及ヒ收入勘定帳ヲ掌調理シ其

收入及ヒ經費ノ殘餘ヲ納付セシムル等ノコトヲ

掌ル其事務ヲ分ツテ各部トス

第一部

陸軍省

該省資用ノ額金仕拂及ヒ收入金等一切ノ

勘定簿冊其他物品仕拂有高帳等ヲ定規

照シテ精査勘算シ收入經費勘定帳決算済

ノ證書ヲ作り其收入又ハ經費ノ殘餘ヲ納

大正十一年四月
陸軍省印

付セシムルノ順序ナス

但收出勘定帳及ヒ物品仕拂有高帳等ヲ

精調スルハ第二部以下八部ニ至ルマテ

本文ノ順序ニ異ナルナシ故ニ已下毎部

ハ其擔理スル廳名ヲ挙ルノミ

第二部

海軍省

第三部

工部省

第四部

内務省

警視廳

第五部

大藏省

宮内省

第六部

太政官

文部省

第七部

外務省

司法省

第八部

開拓使

教部省

右介掌ノ事務ヲシテ各部混淆シメサレ

大藏省

要ス

處務順序

第一條

一 凡ノ出納勘定帳ハ右廳於テ大藏省ヨリ受領シタル一切經費ノ金穀ハ定額常費額外常費臨時費等ノ區分ヲ詳明ニシ實際消費ノ正確ナルト其計數ノ明瞭ナルトシ詳カニスル為メ出納勘定帳雛形及ヒ勘定仕上ニ緊要ナル定規ニ基キ精密調整シテ之ヲ本省ニ送致スルモノトス

第二條

一 稅外收入勘定帳ハ右廳於テ現ニ收入セシ金穀ノ名目及ヒ其計數等ヲ詳カニシ誤脱ナキヲ證スル為メ稅外收入勘定帳雛形及ヒ定規ニ基キ精密調整シテ之ヲ本省ニ送致スルモノトス

第三條

一 勘定帳及ヒ附屬簿冊ノ種類ヲ掲クル左ノ如シ

院省

院省

金穀出納勘定帳 内総括 共

未決算金穀仕訳帳

税外收入金勘定帳 内総括 共

開拓使

金穀出納勘定帳 内総括 共

未決算金穀仕訳帳

貸渡金請拂掛帳

税外收入金穀勘定帳 内総括 共

第四條

一 院省及ヒ警視廳ノ勘定帳ハ每一ヶ月ニ之ヲ

12 / 5

區分シ甲月ノ勘定帳ハ乙月廿日ヲ限リ本省
ハ送致スルヲ則トス

第五條

一 開拓使ノ勘定帳ハ本廳ノ支廳ト其距離甚ク
遠隔殊ニ東京支廳ノ外札幌本廳マラ往後ノ
時日僅少ナラス故ニ当分ノ内本文右廳分ニ
同使東京支廳於テ編成合算シ以テ大藏省ニ
送致スルコト、ス其送達スルノ期程左ノ如
シ

初度

青

指

西

根

擇

太

十月十有限

歳省

二回	三回	最後
十一月 八月	十一月 八月	十一月 八月 六月 三月 二月 一月
札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌	札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌	札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌
函館 函館 函館 函館 函館 函館	函館 函館 函館 函館 函館 函館	函館 函館 函館 函館 函館 函館 函館 函館 函館 函館
根室 根室 根室 根室 根室 根室	根室 根室 根室 根室 根室 根室	根室 根室 根室 根室 根室 根室 根室 根室 根室 根室
東京 東京 東京 東京 東京 東京	東京 東京 東京 東京 東京 東京	東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京 東京
札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌	札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌	札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌 札幌
二月十六日限	五月十六日限	十月廿日限

第六條

一 院有毎歳最後ノ分 勘定帳ハ 歳費完結ノ期 即タルヲ以テ 次條ニ掲クル支廳勘定帳編入ノ定期ヲ 参酌シ 本廳ヲ距ル五十里外ニ 支廳アル向ハ 第四條ニ掲クル定期ノ 外 本支廳ノ

距離百里ニ付 日數十日ノ割合ヲ以テ 延期スルヲ則トス

第七條

一 若支廳勘定帳ハ 悉ク之ヲ 本廳勘定帳ニ編入 共計ス 然リト 雖モ 遠隔ノ地ニアル支廳ニ至テハ 本廳勘定帳ニ 同時編入ナシ 難シ 故ニ 本支廳距離ノ 遠近ヲ 量リ 左ノ 期程ニ 從ヒ 編入スルヲ 則トス

但五十里以内ノ地ニアル支廳ノ勘定帳ハ 本廳勘定帳ト同一ノ月ニ 啓シ 支廳一月分 定帳ハ 本廳

大 歳 省

一月分勘定帳ノ編入スル類ノ編入ス

五十里外二百里迄ノ地ニアル支廳甲月ノ勘定帳ハ本廳乙月分ハ編入二百里外五百里迄ノ分ハ甲月ノ勘定帳ハ本廳丙月分ハ編入漸次此例ニ準シ編入ス

第八條

一 支廳ノ勘定帳ハ前條ノ例ニ準據シ本廳勘定帳ハ編入スト雖モ其年ノ勘定仕上ハ其年限リ區分決算シ次ヲ翌年ニ編入スルヲ許サス故ニ歳尾ノ勘定帳ハ院有及警視廳ハ六月分開拓使ハ前條ニ記スル

カ如 本廳ト同一ノ月ハ編入スルヲ則トス

第九條

一 外國派出我公使領事館ノ出納勘定帳ハ每三ヶ月ヲ區分シ翌月廿日限リ郵便ノ都合ニヨリ定規ヲ延縮スルコト該地ヲ發遣ス可シ而シテ外務省於テハ每三ヶ月間現ニ到着スル處ノ勘定帳ヲ以テ別ニ總括セル勘定帳ヲ製シ翌月廿日ヲ限リ大藏省ニ送達スルヲ則トス

第十條

一 公使領事館勘定仕上モ右廳ト同シク兩年ハ

跨ルイッ許サス故ニ最後四月ヨリノ三ヶ月
分ハ右部ノ勘定帳悉ク到達スルヲ待テ前條
ニ掲クル如ク外務省ニ於テ總括勘定帳ヲ製
ス尤右部ノ勘定簿全備ノ日ヨリ廿日ヲ限リ
本省ニ送致セシムルコト、ス

第十一條

一前右條ニ掲載スル規程ニ循ヒ出納勘定帳ヲ
本省ニ送致スレハ本省文書課往後掛ヨリ之
ヲ本寮ニ達ス本課之ヲ受領シ先ツ簿冊調成
ノ体裁ヲ檢シ違謬ナキハ前月ヨリノ越高

及ヒ本月ノ交付高院省及警
視廳ノ令又ハ前三ヶ月ヨ
リノ越高前年ヨリノ
高ヲミ調査ス及ヒ茲回三ヶ月ノ交
交付高用拓使
令ト曩ニ出納頭へ出シタル第一
号受取証書第十二号
形ニ詳ナリ及ヒ第二号決算未済
証書第十二号
形ニ詳ナリノ高ト照合シ差謬ナキヲ保
シ其高ニ證書突合済ノ印ヲ捺シ尚調査了ツテ後
決算証書ノ下葉ヲ添付シ第四決算課ニ送致
ス同課於テハ追算留済ノ印ヲ押シテ本課ニ返
付ス若シ其元請高等誤脱アレハ課長ヲ經寮
ノ授印ヲ了ステ其旨ヲ該廳へ達シ再調セシ

ハ可シ該廳ハノ違方順序ハ課長ヲ經假令此
々タル數額タリトモ決テ差謬アラシム可カ
ラス

第十二條

一 出納勘定帳元請高等差謬ナキモノハ其消費
ノ当否ヲ検査シ計數ノ多寡ヲ勘算ス其順序
ハ次條以下ニ詳ラカニス

第十三條

一 九右廳定額金ハ正院ニ於テ之ヲ議定シ其金
額及ヒ内訳等詳悉本省ニ達ス当寮之ヲ受領

シ其消費ヲ検査スル常ニ此違書ニ照シテ出
途ヲ弁明ス可シ若シ夫レ甲定額ノ剩餘ヲ以
テ乙定額ノ不足ヲ補フ等ノコトアルトキハ速
ニ之ヲ更正セシムルコトス
但正院ノ許可アルモノハ此例ニアラス

第十四條

一 官負月俸ハ則テ曩ニ頒布アリシ月俸規則及
ヒ右廳ヨリ申告スル官負點涉書ニ照シテ右
等人負并支給高及ヒ其緣由等ニ至ルマテ精
密ニ調査勘算ス

第十五條

一 一般月俸規則ノ外或ハ正院ノ允許ヲ得或ハ
 正院ノ委任ニ因テ該廳限リコレカ變則ヲ設
 ケシ等ノ類ハ正院正院ノ允許シ經ルモノ又ハ右廳右廳ノ委任モ
 任ノヨリ詳悉其事歟ヲ本省ニ報告シ本省之
 ヲ本寮ニ達スレハ第一成算課於テ之ヲ受領
 スルコト、ス故ニ本課於テハ其時々遺漏ナ
 ク之ヲ騰寫シ此報告ニ照シテ調査勘算ス
 但正院ノ達書及ヒ右廳ノ報告等ハ總ラ之
 ヲ騰寫シ計簿調整ノ基本ニ供ス

第十六條

一 右廳雇入外國人給料及ヒ諸手当金等ハ其雇
 入或ハ雇継ヲ許可セシ旨正院ヨリ本省ハノ
 達書第十四條ニ掲載スル及ヒ之ヲ附屬スル
 雇入條約書ニ基キ每一員其支給方ノ当否ヲ
 検査シ計數ヲ勘算ス

第十七條

一 旅費ハ則テ正院ヨリ頒布アル旅費定則ニ準
 據シ並旅行巡回其他右種ノ名義ニ就テ支給
 方ノ当否ヲ審査シ其計數ヲ勘算ス

第十八條

一右廳於テ旅費日当ノ額ヲ節減シ或ハ變則ヲ
設立セシノ類ハ第十五條ニ掲ル如キ報告ニ
準據シ精査ニ調査勘算ス

第十九條

一右廳雇入外國人旅費ハ現費給與ノ成規ニ
ハ官私出廷ノ區分ヲ明弁シ其官給ノ費程相
当ナルヤ否ヲ精査ニ調査勘算ス

但右廳於テ該廳限リ適宜ノ方法ヲ設ケシ
モノハ之ヲ調査スルヲ第十八條ニ掲ル如

シ

第二十條

一外國派出我公使領事館ノ經費及ヒ其在勤官
負手当金等ハ外務省ニ於テ正院ノ允許ヲ得
タル條例及ヒ其他ノ定規ニ準據シテ其当否
ヲ稽查シ費程ヲ勘算ス

第二十一條

一陸海軍文部等ノ官費ニ寄宿スル官費生徒給
糧ニ関スル經費ハ該廳ニ於テ正院ノ允許ヲ
經タル定規ニ準據シテ調査勘算ス

第二十二條

一 陸海軍兵員ノ給糧被服等ノ經費モ前條ニ同シ

第二十三條

一 徵兵入費ハ徵兵及ヒ付添區戸長等ノ旅費雇醫用使ノ給料等總テ陸海軍省於テ概定セシ所ノ規程ニ照シ精密ニ調査勘算ス

第二十四條

一 家祿賞典祿等ハ主任ヨリ報告スル所ノ祿高帳ニ照シテ其本額ノ当否ヲ調査勘算ス

第二十五條

一 懲役場入費ハ懲役人ノ授工服役セシ其收入金ヲ以テ役場百般ノ費用ニ供給スルモノトス若シ其收入ヲ以テ充用不足シ生スルトキハ之ヲ官給スルノ政規ナレハ官費ハ勿論收入金ヲ以テ供給セシ費額ヲモ精細ニ調査勘算ス

但 役囚投業ノ方法全ク備ハルマテハ八年三月内務省乙第三十九号達書費途ノ區別ニ照シ調査スルトス

第二十六條

一 修路架橋治河堤防營築等ニ関スル費違ハ一
事業毎ニ其分限ヲ明ニシ譬ハハ甲ノ事業ハ
若干金ヲ消費シ乙ノ事業ハ若干金ヲ供給セ
シ等明細ノ勘定ヲナスモノトス故ニ其事業
ノ分限毎件仕拂ノ当否ニ至ルニテ精細ニ照
檢ヲ遂ケ而シテ其費程ヲ正算ス

第二十七條

一 九成規アルモノ即滿年賜金官負宿代等其他
諸般ノ雜給ハ例規沿革

檢査寮ニテ編集
セシ簿冊ヲ云フニ照

準シテ当否ヲ稽査シ計數ヲ勘算ス

第二十八條

一 諸物品買上代其他總テ實價ニ就キ供給セシ
モノハ必ラス其需用ノ緣由ヲ并明シ而シテ
費項ヲ勘算ス

第二十九條

一 臨時交付セシ金穀ハ總テ最前其費用ヲ交付
スルノ際或ハ御ノ決判アル回議ノ副本又ハ
正院違書ノ寫本等ニ就テ其因故ヲ并明シ而
シテ消費ノ当否ヲ稽査シ計數ヲ勘算ス

第三十條

一 未決算金穀仕訳帳ハ其決算ニ至ラサル緣由ヲ稽查シ計數ヲ勘算スルモノトス最事業ノ長短消存ヲ問ハス既省ハ每一ヶ月用拓使ハ每三ヶ月月中仕切決算ヲナスノ成規タルヲ以テ若其決算遅延スルトキハ主務ノ廳ニ推問督促シテ速ニ決算セシムルヲ要ス

但外國ノ注文物品代價ノ如キハ物品到着ノ上ニアラサレハ事實決算ニ至リ難キモノハ到着ノ上決算セシムルノ例ニ據ル一

シ

第三十一條

一 貸附金穀勘定帳ハ其貸附及ヒ返納ノ額主任ヨリノ報告ニ照査シ当否ヲ明弁シ計數ヲ勘算ス

第三十二條

一 第十二條以下第三十一條マテニ掲列スル所ハ勘定帳検査上ニ於テ藥子例準ヲ示スノミルソ百般ノ出納右其成規アリ或ハ定額アリ随テ検査ノ順序モ異同ナキ能ハス故ニ如此

ハ前例ニ倣ヒ若其成規ト定額トニ照準シテ
精査ニ之ヲ調査ス

第三十三條

一各廳ノ經費ハ其賞額ノ元帳ヲ製シテ定額シ
元トシ其實賞ト殘餘トヲ月々ニ詳録シ此帳
簿ニ照シ右科目ノ金額遣拂超過セサルヤ否
ヲ調査スレコト、ス

第三十四條

一勘定帳内記毎件其明細表通計ニ照查シテ差
異ナケレハ(正)印ヲ押シ合計差謬ナキモ又(正)

印ヲ捺ス明細表毎件規柝ニ適當スルモノハ
(檢)印ヲ押シ計數差謬ナキハ(正)印ヲ捺ス勘定
帳及ヒ明細表合計ニハ管主者ノ小印ヲ加
押ス

第三十五條

一經費ノ内事理明晰ナラサルカ又ハ計算上確
當セサルアレハ毎件其趣ヲ詳細附箋ニ書シ
寮名ヲ以テ該廳ニ諮詢ス、シ尤事端錯雜書
面上ニテ其趣旨貫通シカタキモノハ主任ノ
官負フシテ出頭セシメ逐件之ヲ推窮ス時宜

ニヨリ主任ノ検査官該廳へ出行シテ其長屬
官へ直ニ推問スル事アリトス

但主任ヲシテ本寮へ出頭セシムルハ本寮
名ヲ以テ該廳充テノ書通ヲ作り課長ヲ經
テ受付課ニ付シ呼出ノ順序ヲナサシム

第三十六條

一前兩條ニ掲クル如ク推究ノ上其事全ク規則
ニ違反スルモノハ規則第幾條ニ違反スルヲ
以テ決算ニ立カタキ旨ノ達案ヲ具シ課長ヲ
經寮頭檢印ノ上御ノ名ヲ以テ該廳へ達スル

不合規ノ廉アルモ事由アリテ之ヲ特殊ノ詮
議ニ付スヘキモノハ御ノ決裁ヲ經ルコト、
ス

第三十七條

一前條ニ掲クル如ク決算ニ立テカタキ旨ヲ該
廳へ達シタル上ハ勘定帳總括ヲ始メ内訳明
細表ニ至ルマテ悉ク其決算ニ立テカタキ金
負ヲ删除シ再ヒ計數ヲ検査シテ決算ノ額ヲ
確定ス

第三十八條

大藏省

一右廳長官推限外ノ費用ヲ正院ノ許可ナクシ
テ仕拂フモノアルハ其顛末ヲ推究シ第三
十六條ノ順序ニ從ヒ未決算ノ違ウナス

第三十九條

一税外收入勘定帳ハ出納勘定帳ト共ニ本省ニ
送致スルヲ則トス

第四十條

一右廳税外收入勘定帳及ヒ内訳表ヲ本省ヨリ
回付スレハ本課之ヲ受ケ先ツ帳簿調成ノ体
裁ヲ檢シ其金負納消ノ分ハ第四成算課ニ付

シテ突合消ノ印ヲ取リ而シテ右其收入ニ付

緊要ナル定規ニ照シ審査勘算ス差謬ナキモ

三條ニ掲クル如ク
檢正ノ印ヲ捺ス

第四十一條

一税外收入勘定帳調査正算シ了シテ其差違ナ
キヲ保證シ而シテ本月納付スル額ハ常用
準備收入ノ區分ヲ為シ現金納付ノ回議ヲ付
シ勘定帳送致前主任於此例ニ納付ノ課長ヲ
ノ順序ヲ了スルモハ此例ニ非ス課長ヲ
經察頭ノ檢印ヲ了シテ御ノ決判ヲ請ヒ傳票
ノ順序ヲ了サシム本納ノ順序ハ本文ノ如ク
ト雖モ勘定帳調査正算結

至ラサル前其現金ヲ収納スルハ明治七年十
二月中不達ノ通タル可シ
但準備ハ收入スルモノハ國債寮ニ回送シ
御決判ノ上金額等帳記ノ為メ再ヒ同寮ニ
送付ス帳記了ラ之ヲ還送スレハ直ラニ傳
票ノ順序ヲナサシム

第四十二條

一 税外收入金數常用或ハ準備ハ納付ノ區分、
本省於テ決定セシ成規ニ從テ處弁ス

第四十三條

一 税外收入ノ納付期限ニ至リ未タ納付セサル

アレハ書面ヲ作り順序ヲ經テ主務ノ廳ハ督
促ス

第四十四條

一 勘定帳及ヒ明細表等ノ用紙正院ヨリ頒布テ
ル雛形ニ第七号雜形ノ如シ違ヒ或ハ他紙ヲ用ユル等
ノコトアレハ順序ヲ經テ其帳簿ヲ該廳ハ返
却ス

第四十五條

一 勘定帳送致期限ニ至リ若シ事故アリテ整理
ニ至リカタキハ其狀ヲ具シ延期ヲ本省ハ申

請スルヲレハ之ヲ本寮ニ付ス本課之ヲ受ケ
其申請ヲ審察シテ已ムヲ得サルモノト慮
スルトキハ即テ承認セシ旨ノ回答ヲ作り
課長ヲ經寮頭ノ檢印ヲ了シ御ノ決判ヲ經テ
之ヲ該廳ニ達スルコト、ス

第四十六條

一 勘定帳簿ノ内不明了ノ條多クシテ推問ニ經
ルモ其事理明晰ナラサルカ或ハ會計上ニ於
テ錯雜アリト思慮セシ時ハ檢査ノ官負該廳
ニ派出シ其計簿ヲ整理シテ速ニ決算ニ至ラ

シハルヲ要ス其派出スルヤ義務其他ノ制限
ニ至ツテハ臨時寮頭ノ命令ニヨルコト、ス
但右廳勘定帳送致ノ期限ヲ過キ未ク送致
セサルアレハ日限ヲ以テ督促シ尚日限
ヲ誤ル時ハ本條ニ準シテ處弁ス

第四十七條

一 前條ノ如ク右廳ニ派出スルトキハ從前擔理
セシ所ノ勘定帳ハ其調正ノ済否將來整理ノ
胸算等詳細筆記シテ同僚ニ交付スルコト、
ス

第四十八條

一 右廳勘定帳ハ其帳簿ヲ受領セシノ日ヨリニ十五日以内ニ調査正算シテ完結ニ至ラシムルヲ例トス

但事故アリテ延日スル時ハ其旨ヲ寮頭ニ稟白ス可シ

第四十九條

一 右廳ノ勘定帳ハ速ニ整頓ニ至ラシメンカ為ニ年度ヲ分ツラ之ヲ擔理ス故ニ甲年ノ勘定帳精査了ラサルノ際歳尾ノ勘定帳ハ右支廳シ同ニ編入スルヲ以

ヲ速隔ノ地ニ支廳アル向ハ送致ノ期限ニ随ヒ延期ス可シ 乙年ノ勘定帳ヲ送致スルノ期限ニ至ル時ハ寮員ヲ分ツラ之ヲ精理セシメ偏ニ滯滞ナカラシムルヲ要ス

第五十條

一 非常夥多ノ出費ヲ要スル件アツラ別ニ其精算勘定仕上シナストキハ臨時検査擔当ノ員ヲ設ク然リト雖モ其検査ノ方法ニ於テハ一般勘定帳ヲ点檢スルニ異ルナシ

第五十一條

大蔵省

一 勘定帳ノ既ニ整理シ了ルモノハ其帳簿ノ餘
白ニ勘定仕上相違ナキ旨ノ保證文ヲ記シ檢
査頭及ヒ專掌セル検査官ノ官姓名ヲ書シ式書
第八号雜形ノ如シ而シテ漸次巡回シ檢印ヲ了シテ全
ク清帳トス

第五十二條

一 勘定簿冊送致ノ有無ヲ并知スル為ノ便宜ニ
冊子ヲ設ケ時々此冊子ヲ点檢シ定期ニ到リ
送致セサルアレハ第四十六條ニ掲クル順序
ヲ以テ之レヲ督促シ勉メラ遲延ナカラシム

レヲ要ス

第五十三條

一 凡ソ勘定帳検査上ニ於テ緊要ナル定規成例
及ヒ報告等ハ悉ク之ヲ課中ニ蒐輯シ以テ檢
査ノ根據トナス故ニ此記録ニ照シ百般ノ出
納ヲ調査勘算シテ差謬ナキヲ要ス

第五十四條

一 右廳經費勘定帳調査正算完結ニ至ルモノハ
第五十一條ニ掲ケシ順序ヲ了シテ上帳トシ
第三号ノ決算證書ヲ製シ勘定帳ニ添付シテ

第四成算課ニ付ス

第五十五條

一 税外收入ノ勘定帳ニ其簿冊ヲ調正スルノ後
第五十一條ニ掲タル順序ヲ經テ上帳トシ第
十号雛形ノ如ク決算證書ヲ製シ勘定帳ニ添
付シテ第四成算課ニ送付ス

第五十六條

一 造幣鑿鑄製紙製作鉄道電信等總テ増殖收入
アル事業ニ関スルモノハ其費用ト收入トノ
金額ヲ比較勘査セザル可カラス故ニ費用收

入判明ナル比較表ヲ製シ毎三ヶ月ヲ區分シ

翌月廿日ヲ限リ右廳ヨリ送致スルヲ則トス

此比較表ハ第十八号
雛形ニ詳テリ

第五十七條

一 此比較表ヲ本省ニ送致スレハ之ヲ当寮ニ付
ス本課之ヲ受ケ而シテ其表中費用ノ金額及
ヒ收入ノ金負トモ第四第五等ノ成算課ニ既
テ該廳ノ經費及ヒ税外收入勘定帳ト右々其
金額ニ照シテ差違ナキヤ否ヤヲ調査シ左異
ナキモノハ之レヲ改正掛ニ付ス

第五十八條

一右廳所有ノ器具書籍木石其他日用ノ筆紙墨
薪炭等一切ノ物品ハ元高及消耗高残高等ヲ
證明ニスル為メ毎半年ヲ區分シ第二十一号
雛形ノ如ク有高帳ヲ製シ前半年分ハ一月二
十日後半半分ハ七月二十日限本省ニ送致ス
ルコト、ス

第五十九條

一物品有高帳ハ概子其物品ヲ類別調成シ器具
書籍
木石等類其物品ノ代價ヲ記載シ而シテ其代

價タルヤ該廳定額金ヲ以テ供給セシカ又ハ
額外ノ出費ナルカヲ區分セシムルコト、ス

第六十條

一物品有高帳ハ精密ニ調査勘算シテ差謬ヲキ
シ保証シ寮頭ノ捺印ヲ經テ以テ之ヲ御ニ呈
ス御一閱シ了シテ後之ヲ本寮ニ存置スルモ
ノトス

第六十一條

一院有及警視廳一歳ノ經費ニ於ル前年歳尾ニ
於テ翌年一歳ノ該額ヲ擬定シ次ヲ逐ニ交付

スルモノナレハ右廳ニテ一歳ノ經費勘定ヲ
完結スルノ後既ニ交付シタル金穀ノ残余ヲ
ルトキハ還納セシムルヲ則トス

第六十二條

一歳尾ニ至リ一歳經費ノ勘定ヲ整頓スルニ方
リ其頭金ハ既ニ拂出アルモ其年内ニ中仕切
ヲ以テ決算完結ナシ難キモノハ其事由頭未
シ稟申シ未決算ノ金額ヲ調成シ其旨趣ヲ稟
申スルハ明治七年十一月第百四十
四号布達ノ雛形ニ據ルハキコト、ス許可ヲ經テ翌年ニ至リ
精算スヘキ金額ヲ除ノ外ハ一切納付セシム

可キコト、ス

第六十三條

一 残余ノ金穀ハ周年經費ノ決算完結ニ至ツテ
返付セシム可キモノナリト雖モ其残余ノ歳
尾ノ勘定帳ニ於テ既ニ判明ナレハ勘定帳ヲ
調理セサル前ト雖モ彙算ヲ以テ残余ノ金貨
ヲ返付セシムルハ明治七年三月大藏省第二十五
号布達ニ照スルコト、ス

第六十四條

一 残余ノ金穀ヲ還納セントシテ其旨ヲ右廳ヨ

リ照管スルアレハ歳尾ノ勘定帳ニ照シ該額
ヲ査訂シ納付セシムルノ回答案ヲ州ノ課長
ヲ經察頭ノ檢印ヨ了シ卿ノ次判ヲ請ケ卿ノ
名ヲ以テ該廳ニ申達シテ傳票ノ順序ヲナサ
シム

第六十五條

一勘定組ニ関スル條件ハ法案ヲ以テ正院ヨリ
本省ハ下議スルアレハ之ヲ當寮ニ付ス本課
之ヲ受ケテ其當否ヲ審察シ其妥当ナルモノ
ハ上答案ヲ草シ課長ヲ經察頭ノ檢印ヨ了シ

卿ノ次判ヲ請ケ最前下付ノ法案ト共ニ之ヲ
受付課ニ付シ本省文書課往後掛リニ送致セ
シハ答議ヲ淨書スルハ本省往後掛ニ於テス
ルコト、ス其附屬書類ハ編集課ニテ謄寫セ
シム

第六十六條

一正院下議ノ法案中若シ妥当ナラサルコトア
ルカ又ハ實際ニ於テ支吾スル等ノ件アレハ
其旨趣ヲ具陳シ或ハ其事由ニヨリ更ニ法案
ヲ整理シテ上呈スルコトアリトス

但前條ニ掲クル條件等ヲ御ヨリ下議スル
コトアレハ其当否ヲ察シ答議ヲ作り部長
ヲ經察頭ノ捺印ヲ了テ上呈ス時宜ニヨリ
察頭ノ命ヲ兼ケテ新ニ法察ヲ州スルコト
アリトス

第六十七條

一 勘定仕上ニ関スル規則中若シ曉解シ難キ條
アルカ又ハ難決ノ件アツテ諮問照會ヲ受ル
アレハ其事端ヲ詳悉シテ回答案ヲ州シ課長
ヲ經察頭決判ノ上卿ノ名ヲ以テ回答ス其本

察ニ對シ諮問スルモノハ察頭ノ名ヲ以テ之
ニ答ヘ又ハ察名ヲ以テラス尤其時宜ニヨリ卿
ノ決判ヲ受ルコトアリトス

但卿名ノ回答文等ハ密封ノ上課長捺印ノ
付箋ヲ以テ本省文書課往復掛ヘ送付ス尤
至急ノ文書ハ其旨付箋ニ記載スヘキモノ
トス

第六十八條

一出納勘定組ニ関スル條件若廳ノ申請ニヨリ
正院於テ許可セシモノハ其旨ヲ本省ノ令達

シ之レヲ本寮ニ達スルヲ例トス本省於テ許
可セシモノモ亦其旨趣ヲ本寮ニ達スルコト
、ス故ニ計簿ヲ調査スルノ際必ラズ此違書
ヲ以テ標準トス

第六十九條

一臨時費用仕上消ヲ以テ請求スル回議冊等ヲ
他ノ寮局ヨリ傳致スルトキハ正院或ハ本省
ヨリ違書中許可ノ額ト其仕訳書トヲ照査シ
差違ナキモノハ正印ヲ押シ主務ノ負及ヒ課
長檢印ノ上第四成算課ニ回付ス

第七十條

一若寮局起案ノ回議巡覽ノ帖冊往復文等ノ類
他日ノ照會ニ必要ナリトスルモノハ再ヒ本
寮ニ回致セシメン為メ其議冊面寮名ノ上ニ
要再回ノ印ヲ捺スルヲ例トス
但要再回ノ印ヲ押セシ議冊ノ件銘ヲ記ス
ル為メ別ニ一冊子ヲ設ケ其件銘及番号月
日等ヲ鈔録シ再回遲々スルアルハ主務ノ
寮局ニ督促シテ速ニ回致セシメ之ヲ編集
課ノ負ニ付シテ謄寫セシムルコトトス

第七十一條

一 調査済勘定帳ニ付属セル書類及ヒ明細表ノ類ハ勘定帳調査ヲ了シテ後第五決算課ニ送付スルコト、ス他日照會ヲ要スルコトナルトキハ此課ニ就テ見ル可シ

第七十二條

一 右廳ヨリ毎三ヶ月勘定帳ト共ニ送致スル計算表ハ本課之ヲ受ケ而シテ其表面ノ高ト勘定帳ノ精算高トヲ照査シ其差異ナキヲ保シテ之ヲ改正掛ニ回付スルモノトス尤計簿調査済ノ工其決算高ニ差異ヲ生スルトキハ更

ニ此旨ヲ改正掛ニ報知スルコト、ス

第七十三條

一 庫内ノ現貨出入及ヒ紙幣其他公債證書諸印紙類製造并ニ銀行預ケ金有高等檢視ノ為メ寮頭ノ命ニ因リ右所々臨時出張スル事アリトス其詳細ハ本寮事務ノ順序第二十款ニ就テ見ルヘシ

第七十四條

一 課長ハ本課ノ事務ヲ擔当整理スルニ於テハ寮頭ニ對シ其責任ヲ有ス故ニ一課事務ノ当

否ヲ并論シ其意見ヲ陳述シ又課中属官ノ能
否勤怠ヲ監視シラ之ヲ寮頭ニ稟白スルヲ得

第七十五條

一他ノ課事務ノ溢滞セルニヨリ本課ノ事務上
ニ於テ障碍ヲ生スル等ノコトアルトキハ該
課ニ對シ速ニ督促スルヲ要ス

第七十六條

一課中ノ官負介掌日々處弁スル所ノ事務ハ右
自其要ヨ日録ニ摘記シ第三十号雜
形ノ如シ其翌月二
日ヲ限リ之ヲ課長ニ出スヲ例トス課長閱了

シラ又之ヲ合纂シ而シラ一課ノ月報トナシ

第二十九号
雜形ノ如シ同五日ヲ期シ之ヲ寮頭ニ出スヲ

則トス各負ノ日録ハ之ヲ
受付課ニ送付ス

但年未ノ介ハ十二月廿日ヲ限リ課長ニ出
セハ課長之ヲ合纂シラ同廿三日ヲ期シ之
ヲ寮頭ニ出スコトトス

